

## **[成果情報名] 平坦地の露地栽培におけるトルコギキョウ切り花の生産技術**

**[要約]** 高透光・遮熱資材とハウス型大型トンネルを使用し、5月中旬に定植することにより、これまで栽培が困難であった夏期高温環境下の平坦地においても簡易な設備でトルコギキョウの露地栽培が可能となる。

**[担当]** 総合農業技術センター 高冷地野菜・花き振興センター 花き・応用育種科 三浦大樹

**[分類]** 技術・参考

---

### **[背景・ねらい]**

平坦地におけるトルコギキョウ栽培は、これまで夏の高温により栽培が困難であったが、近年夏期の切り花需要が高まっており、直売向けの生産者からは平坦地においても栽培可能な生産技術の開発が求められている。

そこで、夏期高温環境下の平坦地における、トルコギキョウ露地栽培の生産技術を確立する。

### **[成果の内容・特徴]**

1. 夏期高温環境下の平坦地においても、高透光・遮熱資材とハウス型大型トンネルを用いることで、有効花蕾数を平均10個以上確保することができ、また、切り花長を60cm以上確保しつつ、主茎の変形を抑制できる。(表1、図4)。
2. トンネル内の照度は高透光・遮熱資材区が約35%高くなる。最高気温は寒冷紗50%区と比較し高透光・遮熱資材区が約6℃高いが、主茎の変形等の高温障害は少ない(表1、図1、図2、図3、図4)。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 本試験は総合農業技術センター内圃場(甲斐市 標高315m、褐色低地土)の露地ほ場において、雨よけビニールと遮光資材を併用し栽培した。
2. 試験においては、耐暑性があり、ロゼット化しにくい品種を用い、種苗会社から購入した種子冷蔵処理済みの288穴セルトレイ苗を使用した。
3. 高透光・遮熱資材は、カルクールsw50(遮光率50%)を使用した。
4. 畝は平畝で白黒マルチを使用。フラワーネット(目合15×15cm)を1段設置し、株間15cm、畝幅90cm、4条植え。摘心無しの栽培とした。
5. トルコギキョウは水分を多く必要とするため、定植直後は十分な灌水を行い、その後も土壌水分を適正に保つことが必要。
6. 雨よけビニールのみでの栽培では生育が安定しないため、何らかの遮光資材が必要。遮光資材の種類や被覆方法についてはさらに検討を行う。

### **[期待される効果]**

これまで栽培が困難であった夏期平坦地におけるトルコギキョウの露地栽培が可能となり、切り花の新たな品目として加わる。

[具体的データ]

表1 遮光資材の違いがトルコギキョウに及ぼす影響

定植日	品種名	被覆資材	早晩性	採花日 <sup>z</sup> (月・日)	可販率 <sup>y</sup> (%)	切り花長 (cm)	有効花蕾数 <sup>x</sup> (個)	主茎の変形 (%)
2024年 5月中旬	ポレログリーン	高透光・遮熱資材	中早生	7月30日 ±4.3	90	67.4 ±4.9	12.0 ±3.7	0
		寒冷紗	中早生	7月31日 ±5.5	10	67.8 ±5.8	9.2 ±4.3	85
2024年 5月下旬	ハピネスホワイト	高透光・遮熱資材	中晩生	8月4日 ±1.2	90	76.5 ±4.3	12.6 ±2.8	0
		寒冷紗	中晩生	8月9日 ±5.0	95	75.6 ±6.3	6.9 ±2.2	5
2024年 5月下旬	ココ	高透光・遮熱資材	中生	8月3日 ±1.8	65	66.5 ±3.3	15.8 ±4.7	35
		寒冷紗	中生	8月5日 ±2.4	5	63.2 ±4.5	7.8 ±2.3	95
2024年 5月下旬	ジャスニーホワイト	高透光・遮熱資材	中晩生	8月12日 ±2.2	100	77.0 ±3.8	11.5 ±2.5	0
		寒冷紗	中晩生	8月14日 ±1.8	75	69.3 ±4.2	5.7 ±1.3	11

z: 採花した日。2花以上咲いている時、2節目から採花。

・表中の±は標準偏差を示す。

y: 切り花長60cm以上、有効花蕾数5個以上で外観に問題がなく、販売が可能と判断されたものの割合。

x: 20mm以上の大きさを採花後に開花が見込まれる花蕾と、既に開花している花蕾の数。

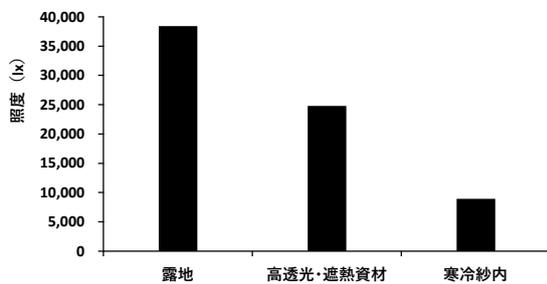


図1 遮光資材の違いによるトンネル内の照度差(7/16 15時)

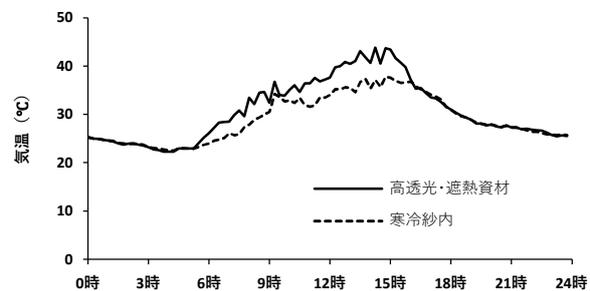


図2 遮光資材の違いによるトンネル内の気温変化(8/1)

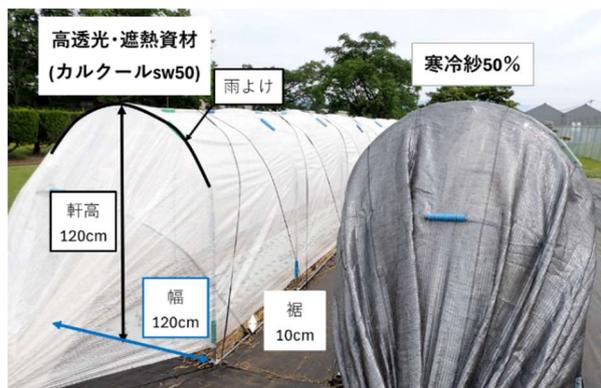


図3 遮光資材の被覆方法 (ハウス型大型トンネル)



図4 花蕾数の多少による外観の違い (右は主茎の変形を伴う)

露地トルコギキョウ の栽培作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		○			□		

○: 定植 □: 収穫

図4 平坦地での露地トルコギキョウ作型例

[その他]

研究課題名: 需要期に応じた切り花有望品目の安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2024~2027年度

研究担当者: 三浦大樹、窪田浩一、穴澤拓未、五味愛美